

「世界が続いていくために、私たちができること」

海星学院高等学校 校長 塚 俊光
担当 市川 栄作

1 本校の ESD の特徴

本校は、室蘭市にある男女共学、全校生徒 237 名のカトリック系のミッションスクールであり、アメリカの修道会が約 50 年前に設立した。アメリカ修学旅行・語学研修や、北海道洞爺湖サミットあるいは豪華客船室蘭来航にともなう通訳ボランティア（外国人の観光サポート）などの国際理解における取り組みが評価され、2010 年 10 月にユネスコスクールとして認定された。

「世界が続いていくために、私たちができること」をテーマとし、主に開発途上国と国内被災地の支援を通じて、持続可能な社会の担い手に求められる資質の涵養を目指している。通常の授業はもとより、持続可能な社会の実現に向け第一線で活躍する方々を招き、生徒の「出会い」と「学び」の場の拡張を保障している。また、テーマや講演に関連する多彩なプログラムを用意している。少人数制の強みを活かし、プログラムの参加者をその都度、募る。生徒は自分の興味・関心や特技・能力に応じて、各プログラムに参加する。あらゆる生徒のプログラムへのアクセシビリティを保障するとともに、活動する生徒の固定化を防ぐねらいがあり、認定当初からこの方式を採用している。また、プログラムの活動報告や活動発表の場を、校内はもちろん、可能な限り校外にも設けるようにしている。

現在、生徒はこれらの活動において、自分たちにできることを考え、それを実現するために主体的に活動している。また、しばしば生徒自らがプログラムを発案し、運営する姿も見られるようになった。ここでは、2015 年 11 月以降の活動の一部を報告する。

2 活動全体計画（抜粋）

★は生徒が発案したプログラム

【2015 年 11 月-2016 年 3 月】

日ユ協主催「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」リーフレット制作・市内配布／掲示

JICA 主催「世界の笑顔のために」プログラム物品募集・送付★

JAM 主催「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（フィジー共和国）

クリスマス・クッキー作り開催（岩手県釜石市の仮設・復興公営住宅の方々へ）★

3 年生運動靴募集・送付（フィリピンの施設へ）★

室蘭社会福祉協議会主催「雪かきレンジャー」参加★

全校集会「3.11 の集い」開催★【A】



【2016 年 4 月-2016 年 10 月】



A

地域清掃

熊本緊急募金★

JICA 主催「世界の笑顔のために」プログラム物品募集・送付★

講演会「スポーツを通じた国際協力」（ブルキナァソ野球を応援する会代表出合祐太氏）

義大国際高級中學訪日教育旅行団受入（台湾高雄市生徒 21 名）

Edina 高校留学生受入（アメリカミネソタ州生徒 6 名）

講演会「ベネズエラの国と音楽」（駐日ベネズエラ大使夫人 石川コロネりか氏）

講演会「世界の食糧問題について」（FAO 日本事務所代表 Mbuli Charles Boliko 氏）【B】

東北ボランティア生徒派遣（岩手県にて傾聴を主としたボランティア）

「西アフリカ選抜野球選手との文化交流」開催（文化交流・調理実習）【C】

JICA 主催「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2015 海外研修」参加

HIECC 主催「高校生・アジアの架け橋養成事業」参加（フィリピン共和国）【D】

WFD 登別大会主催「高校生スタディーツアー」参加（FAO 駐日連絡事務所訪問）

東日本大震災募金★

室蘭ユネスコ協会主催「ユネスコ・ユースフォーラム 2016in 室蘭」参加

C



3 活動事例

・講演会「ベネズエラの国と音楽」（駐日ベネズエラ大使夫人 石川コロネりか氏）

同国の概要・国民性・文化の紹介を通じ、生徒は自らのコミュニティーの外に意識を持つ・社会の一員として主体的な行動を選択する重要性を学ぶ。また、同国で始まった世界的な音楽教育プログラムや、同氏が訪れた長崎で隠れキリシタンと原爆の歴史に触れたエピソード、「被爆のマリアに捧げる賛歌」の発表から、連帯・協同にこそ人の幸せがあること、大事なものを次世代に受け継いでいく人と平和の尊さについて意識を深める。

・講演会「世界の食糧問題について」（FAO 日本事務所代表 Mbuli Charles Boliko 氏）

世界の食糧事情がテーマ。生徒は食料安全保障と FAO の役割について理解を深める。世界各地の食料廃棄のデータから、生徒は自らの生活を省みるとともに、世界を舞台にして活躍する同氏の熱意に触れ、グローバル人材に求められる資質について学ぶ機会となった。

4 成果と課題

これら講演会に刺激され、FAO 日本事務所や、フィリピン・ベトナムなどに、全国・全道の代表として生徒が派遣されるなど、校内・地域を越えた活動が増えた。また、しばしば生徒自らがプログラムを立案・運営するなど校内活動も充実し、持続可能な社会の担い手としての当事者意識が育まれている。全国的な作文コンクールの受賞もその表れの一つと言える。